

不登校児童生徒の支援に係る地区ネットワーク会議

6 月 19 日に開催された標記会議では、児童生徒一人一人の社会的自立を目指し、「それぞれの強みを生かしながらよりよい支援を届けるためにはどのような取り組みが必要か」をテーマにして協議を行いました。市町教育委員会や SSW、民間支援団体や親の会の方、そして今年度は新たに管内の中学校の先生方にも参加をいただき、それぞれの取り組みを共有するとともに、支援の在り方について日頃感じていることを交流しました。

取り組みの中では、校内での居場所づくりや教育支援センターの機能充実といった、学びを保障するための組織的な取り組みを大切にしていきたいということを再確認しました。ICTを活用した相談システムや不登校経験のある方と語り合える場など、子ども達が自分に合った方法で誰かとつながることができるような支援を共有できました。

グループ協議では、「学校からの連絡頻度が時に本人や保護者との信頼関係を損なう可能性がある」というご指摘や、学校外の学びの場を紹介する際、保護者に「学校から突き放された」という不安を抱かせてしまう難しさなど、課題が共有されました。また、夕方からの登校といった多様なニーズに対して、柔軟な対応が求められていることも話題になりました。急速に変化する社会の中で、不登校支援もまた多様な在り方が問われる難しい局面にあります。そうした難しい状況だからこそ大切にしたいのは、その子が今抱える苦しみ心へ心を寄せることではないでしょうか。本人の気持ちを活動の真ん中に据え、関係各所ができることを繋ぎ合わせながら、温かいネットワークを地域全体で紡いでいく決意を共有する貴重な機会となりました。



授業づくり学校サポート訪問

授業づくりサポート訪問とは？

【社会を生き抜く確かな学力の育成を目指し、質の高い・深い学びを実現する授業づくりに取り組む学校を支援する】ことを目的とした事業です。訪問内容としては、事務所指導主事が訪問し、【教科の本質を捉えた授業づくり】【特別支援教育力を生かした授業づくり】について、先生方と共に考えたり助言したりします。訪問の具体例として、①事前研コース②授業参観・事後研コース③事前研、授業参観、事後研を行う2日間訪問コースがあります。いずれのコースも、各校のニーズに応じて伴走支援しています。

今年度も、本事業に多数のご希望をいただき、全 22校 34 回の訪問を計画・実施しています。8 月現在ですでに9校の学校を訪問させていただきました。今後も各校の学校研究に基づいて、「質の高い・深い学び」を実現するための授業づくりを「共に一歩前へ」進むチームの一員として、サポートできるように精一杯努力してまいります。

授業づくりサポート訪問実施校振り返りアンケートより(一部抜粋)

国語の授業で、音読やノートスキルの大切さ、自分たちの論を精査する時間を、より充実させることについて学ぶことができました。

普段の授業を学習指導要領に照らし合わせて位置付けることができました。ねらいを明確にする大切さを改めて感じました。



令和8年度山形県幼児教育研究協議会(最上・庄内地区)

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために



山形県幼児教育研究協議会を7月 30日(木)にオンラインにより開催しました。100 名を超える最上・庄内地区の先生方が参加し、実りある研修となりました。協議会の前半では、認定こども園若葉幼稚園の実践発表及び高橋栄美子氏の助言、新庄幼稚園認定こども園の実践発表及び高橋昭一氏の助言が行われ、意見交換を行いました。後半は、「インクルーシブな環境で培う子どもの資質・能力」をテーマに、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所ウェルビーイング S&I センター上席総括研究員(兼)センター長 久保山 茂樹 氏にご講演をいただきました。「子どもを『できる・できない』で推し量る『評価のまなざし』から、その子の良さや得意分野、今持っている力でできることを認める『共感のまなざし』への転換が必要であること」「子どもを環境に合わせさせるのではなく、周囲の大人や環境の側が変わることが、多様性を認め合う共生社会の担い手の育成につながる」と、温かい教育・保育の実践を深く学ぶ機会となりました。また、参加された先生方は、実践発表を行った2園の取り組みから多くの学びを得ていました。2園の素晴らしい実践を紹介します。

認定こども園 若葉幼稚園(鶴岡市)

◇園での共通理解の形成

- ・具体的なエピソードを基にした話し合いを行うことで、保育者間で育ちの理解を深めることができた。
- ・ミーティングの時間を活用して気づきを共有することで、学びの連続性を意識した保育づくりにつなげている。

◇週案の改善とカリキュラムの実践化

- ・週案の振り返り欄にエピソードを記録し、次週の計画へつながるようにした。振り返りの中で 10 の姿とつながりとして捉え直すことで日々の保育の中で意識できた。

◇小学校との連携の再構築

- ・子どもの『主体性、協同性、数量や言葉の理解、自然との関わり』など、日常の遊びの中に小学校教育へとつながる学びが豊かに存在していることを再確認できた。

新庄幼稚園 認定こども園(新庄市)

◇あそびを通じた学び「動画コンテンツ」を視聴した「学びの芽」の見取り方の共通理解

- ・幼児期のあそびが学びにつながっている部分を振り返り、子どもそれぞれの発達段階に応じた関わりを持たせることができた。そのためには保育者の見取りが大切である。

◇「わくわく・どきどき」して活動できる場面設定と10の姿を意識した話し合い活動の充実

- ・子ども達の「やってみたい」を出発点にしたことで、遊びや体験を深めることができた。少人数で振り返る機会を設け、一人ひとりが思いを話せるように意識したことで、主体的に考え、学び合う力の育ちにつながった。

◇3、4、5歳のつながりある保育

- ・発達の連続性、目指す子ども像につながる体験が大切。

計画指導訪問校に学ぶ Vol. I

【鶴岡市立黄金小学校】(校長 佐藤 千春)7月7日(火)

学校教育目標「いきいき つよく あたたかい 黄金っ子」

- (1) 学校教育目標の達成に向けて、育みたい資質・能力を明確化し、保護者の理解のもと学校教育全体で、一体となって進めている。
- (2) 職員同士が自己研鑽に励み、同僚性とチームワークのもと、目標、課題を共有し、解決に向けて具体的な手立てを共有し、同じベクトルで進んでいる。
- (3) 情報公開を積極的に行い、「チーム学校」として地域と連携しながら子どもを育てており、信頼される学校としての取り組みを確実に実施している。

【酒田市立松陵小学校】(校長 松本 茂章)7月15日(水)

学校教育目標「よりよい自分をめざし、仲間と力を合わせ、明日を創る子ども〜ウェルビーイングを目指して〜」

- (1) 校訓や学校教育目標について学校・保護者・地域と共有しながら、教育活動全体で方向性を一貫し目標達成の具現化を図っている。
- (2) 話し合いの視点を明確化した学び合う機会を確保し、安心できる関係性の中で研修を実施し充実させている。
- (3) 「松陵基本ガイド」を作成し、教育課程を分かりやすく示すことで保護者の理解も進み、教職員の働き方改革につながっている。